

高砂駅周辺街づくり説明会(令和2年7月15日、19日)及び意見募集での主なご意見・ご質問等

○高砂駅周辺地区まちづくりガイドプランの策定について

ご意見・ご質問	回答
「高砂駅周辺地区まちづくりガイドプラン」は何のために作っているのか。	「高砂駅周辺地区まちづくりガイドプラン」は「高砂駅周辺地区まちづくりプラン」の考え方を踏まえ、連続立体交差事業・鉄道車庫移転・都営高砂団地の建替えを見据えた土地利用や都市基盤に関する構想を明らかにし、3つの拠点エリアを中心としたまちづくりを適切に誘導することを目的に作成しております。
「高砂駅周辺地区まちづくりガイドプラン」作成にあたり、葛飾区は東京都や京成電鉄(株)と調整してあるのか。	「高砂駅周辺地区まちづくりガイドプラン」は東京都・京成電鉄(株)などの関係機関と協議のうえ、まとめたものとなっております。

○連続立体交差事業について

ご意見・ご質問	回答
なかなか連続立体交差事業が事業化されないのはなぜか。事業化にあたっての課題は何か。	現在、東京都と京成電鉄(株)が連続立体交差事業の事業化に向けて、調査・検討を進めております。京成高砂駅は鉄道3線が乗り入れ、鉄道車庫移転もあることから構造や施工手順が複雑になり、技術的な課題があるため、事業費の精査を含めて検討に時間を要しております。東京都では、引き続き上記の課題解決に向けて検討を行っております。葛飾区としては、鉄道立体化を見据えたまちづくりの検討を進め、地域の機運づくりに努めてまいります。
鉄道立体化にあたり、駅舎の位置は変わるのか。	現在、東京都と京成電鉄(株)が連続立体交差事業の事業化に向けて、調査・検討を進めており、基本的には駅舎の位置は変わらない想定で検討していると聞いております。
連続立体交差事業の完成までは時間がかかるので、開かずの踏切の暫定対策として、道路を地下化することはできないのか。	現在、都道だけでなく、周辺の踏切も含めて、鉄道立体化により除却する方針で検討が進められております。道路単独の地下化という考えもありますが、暫定的な事業として実施することは難しいです。
鉄道沿線に住んでおり、連続立体交差事業により立ち退き等がどうなるのか早く知りたい。	鉄道の沿線は連続立体交差事業の影響を受ける可能性があります。具体的な影響範囲や補償等については、事業計画の深度化に合わせ、情報提供してまいります。

○鉄道車庫の移転について

ご意見・ご質問	回答
鉄道車庫移転による、道路が通れなくなることへの対策や景観・騒音等の環境対策をしっかりとやってほしい。	葛飾区としても、鉄道車庫移転に伴う道路の対策等につきましては、周辺まちづくりとあわせて検討しなければならないと考えており、関係者とも協議してまいります。また、新車庫周辺には緩衝緑地帯の整備など、周辺住環境に配慮した取り組みを検討してまいります。
鉄道車庫移転にあわせた公園の再編によって高砂北公園の面積や機能はどうなるのか。	鉄道車庫移転により、高砂北公園の一部が削られる可能性が高いと考えております。具体的な面積などは決まっておりませんが、現在の広場や防災などの機能が確保されるように、創出用地を活用した公園の再編に向け、東京都と協議してまいります。また、駅東拠点エリアにおいても、鉄道車庫跡地の開発にあわせて、公園の整備を誘導してまいります。

○駅前広場、アクセス道路等交通ネットワークについて

ご意見・ご質問	回答
駅前広場整備の影響を受ける可能性が高く、今後の生活を考えるためにも早く計画決定してもらいたい。	葛飾区では、駅前広場の都市計画決定を、連続立交差事業の決定と同時期に進める必要があると考えており、現在から約5～10年と想定しております。駅前広場整備の手法は、街路事業や市街地再開発事業などがありますが、葛飾区としては、整備後も居住や営業を継続することが可能な市街地再開発事業を想定し、「駅周辺地区まちづくり検討会」において、権利者の皆様と事業の仕組みなどを含め、検討を進めております。
駅前広場整備により、イトーヨーカドーはなくなってしまうのか。	駅前広場整備のために、イトーヨーカドーがなくなることはありません。以前は、駅南東側に交通系の駅前広場を整備する方針で検討を進めておりましたが、基本的に駅舎の位置は変わらないという想定を踏まえ、交通系の駅前広場は北西側に整備する方針で検討を進めております。
北口広場は約3000～4000㎡程度とのことだが、南口広場の規模はどの程度か。	南口広場の位置や規模などについて、地域の皆様のご意見を踏まえ、「駅周辺地区まちづくり検討会」にて議論・検討を進めてまいります。
イトーヨーカドー周辺など、高砂駅南側は道路が狭く、一方通行が多い。生活利便性や安全性を踏まえた道路整備が必要と考える。	まちづくりガイドプランにて自動車交通の主軸となる道路を「区画道路」と位置付けましたので、各地区のまちづくりを進める中で、各区画道路のあり方について議論してまいります。また、鉄道立体化による側道の整備とあわせて、地域全体の交通ネットワークを検討してまいります。
都道307号は狭くて危険だから拡幅整備して安全な道路にしてほしい。	都道307号は今後「アクセス道路」として都市計画道路に位置付けて拡幅整備する方針です。歩きやすい歩道や自転車の通行スペースの確保などを考慮して幅員や線形を決めてまいります。

○公共交通について

ご意見・ご質問	回答
都営高砂団地をはじめ、高砂駅周辺はバス路線が少ないので、新規バス路線や小型バスの導入などを検討してほしい。	葛飾区では、公共交通網の充実に向けて、新規バス路線の導入など検討を進めており、都営高砂団地周辺はバス路線の充実の検討をする地域としております。今後、都市計画道路や駅前広場整備の進捗等も踏まえながら様々な検討を進めてまいります。
新金線旅客化の検討状況はどうか。	葛飾区交通政策課が旅客化に向けて、現在は国道6号等の道路との交差等について関係機関と協議を進めております。検討の進捗に応じて、まちづくりとの整合を図るように、情報共有しながら進めてまいります。

○各拠点エリアのまちづくり等について

ご意見・ご質問	回答
京成高砂駅はターミナル駅で、駅周辺は「広域生活拠点」にも位置付けられている。しかし、商店街の売上減少などの課題があり、この連立事業を契機に改善し、賑わいを作る必要がある。	京成高砂駅は鉄道3線が乗り入れるターミナル駅としてポテンシャルの高さを活かしたまちづくりが求められます。駅前だけでなく、駅東拠点エリアや創出用地エリアとの連携もあわせて検討してまいります。
高砂駅周辺地区において、防災面でどのようなまちづくりを考えているのか。	地震・火災対策としては、道路整備に伴う無電柱化や防災生活道路の整備、住宅の建替えに合わせた不燃化の誘導などを考えております。水害対策としては、広域避難と垂直避難を組み合わせた「浸水対応型市街地」の形成を目指してまいります。
都営高砂団地の建替えに伴う創出用地の活用について、「生活利便施設」や「福祉施設」は具体的にどのような施設ができるのか。	一般的に、「生活利便施設」は食料品店・飲食店等の商業施設や医療機関など、「福祉施設」は特別養護老人ホーム等の高齢者施設が挙げられます。具体的な施設については、今後、東京都と協議して決めてまいります。
高砂駅の南側は元々公園が少なく、補助276号の整備で児童遊園もなくなってしまう。社宅跡地など、公園整備に向けて取り組んでほしい。	葛飾区としても公園整備の必要性は認識しており、引き続き、土地所有者と協議を進めてまいります。